

# はじめのいっぽ



早期教育支援部だより  
令和6年8月

夏も本番です。皆様、暑さに負けずにお過ごしでしょうか。幼稚部の畑ではフウセンカズラが小さな白い花を咲かせ、紙風船のような袋状の実をつけ始めました。膨らんだ実を触るとぷくぷくとした触り心地を感じることができます。9月に幼稚部の子ども達が登校し、この実を見つけたときにはどのような反応をみせるでしょう。今から楽しみです。

早期教育支援部では、2学期も引き続き教育相談活動を進めてまいります。この時期、次年度の幼稚園への就園や小学校への就学に向けて準備を進めていらっしゃる方も多いと思います。希望されている就園・就学先と相談を進めていくに当たっては、就園・就学後を見据えた環境についても園や学校の先生方と一緒に考えていきたいところです。お子様が力を発揮できるような環境を整えるためには具体的にどのような準備が必要か、相談担当者が皆様と一緒に考えていくこともできます。ご希望の方は個別にご相談ください。

## グループ活動のご案内

- ◎ グループ活動「ミニ講座」「育児学級」「あそびのひろば」へ参加を希望される方は、必ず実施1週間前までにお申し込みください。締め切りを過ぎてのお申し込みについては、準備の都合上お断りする場合がございます。ご注意ください。

### 【ミニ講座】

視覚障害児の子育てや悩み等について、座談会形式でお話を進めます。

講師に猪平眞理先生（宮城教育大学名誉教授）、高見節子先生（本校元教諭）をお招きし、子育てについてのアドバイスをいただきます。

また、参加者同士、情報交換をしながら一緒に子育てについて考えます。

対象：0歳児～就学前のお子さんをもつ保護者

方法：来校又はオンライン（ハイブリッド形式）

※接続情報はお申し込みをいただいた方へ直接ご連絡いたします。

開催日時：令和6年10月26日（土）10:00～12:00

※3学期は令和7年1月18日（土）10:00～12:00に実施予定です。

## 【あそびのひろば】

お家の人やお友達と一緒に遊びながら、生活経験、興味・関心の幅を広げていきます。  
また、参加者全員で一緒に昼食を摂りながら、交流を深めます。

対象：2歳児（令和6年4月1日現在）とその保護者

方法：来校

開催日時：いずれも月曜日、10:15～12:15

9月30日、10月21日、11月11日、12月9日

持ち物：お弁当、水分、他 各自必要な物

※活動内容によっては、必要な物をお持ちいただくこともあります。

その際は、参加申し込みをされた方へ個別にご連絡します。

## 【育児学級】

毎回講師を招き、テーマに沿った内容のもと、ご参加いただいた皆様と一緒に視覚障害乳幼児の子育てについて考えていきます。また、参加者全員で一緒に昼食を摂りながら、交流を深めます。

対象：0～2歳児（令和6年4月1日現在）とその保護者

方法：来校

開催日時：いずれも月曜日、10:15～12:15

9月9日、10月7日、11月18日、12月2日

持ち物：お弁当、水分、他 各自必要な物

- ◎ 今号も「れいちゃんのコラム」を掲載します。本コラムは、本校卒業生でもある高橋玲子さんが執筆されたものです。以下、玲子さんからの自己紹介です（5月号の再掲）

---

こんにちは。高橋玲子と申します。強度の弱視（小眼球）で生まれ、白内障が出て4歳ぐらいまでにはほぼ全盲になりました。

大学を卒業した後、玩具メーカーのタカラトミーでもう30年以上働いていて、趣味はクラシックの合唱です。複数の合唱団に混ぜていただいて、プロの楽団やソリストの方たちと一緒にステージで歌っています。

ご掲載いただく文章は、社会人になったばかりのころ、おもちゃで遊んでくださる視覚障害のある子どもたちの大人のご家族の方たちに楽しく読んでいただけたら…と願って職場で作っていた通信紙に連載したものです。大昔に書いたものでちょっと恥ずかしいのですが、みなさまに読んでいただけること、とてもうれしいです。

---

## 「コオロギの思い出」

わたしが通った幼稚園の隣には、「大きいお兄さんたち」がたくさんいる高等学校がありました。その敷地内にクローバーでいっぱいの草地があって、わたしたちは、いつでもそこへ遊びに行っていたことになっていました。草地に入ってなにをするか——もちろん虫取りです。友だち同士で出かけて行って、バッタやイナゴやコオロギや、ときにはキュウキュウ音を出す強そうなカミキリ虫のように、見事な大物をしとめることもありました。

草の中は温かくて、クローバーと太陽の甘くほろ苦い香りが今にもこぼれ出しそうに溢れています。わたしはそのにおいが大好きでした。草の中を歩くと、かきこそ、ふつふつ、みずみずしくて、とてもすてきな音がします。自分の歩く音よりも、友だちが歩いたり走ったりする音のほうが、わたしは何倍も好きでした。草の上を渡ってくる風は、いつも優しく、遠くの香ばしい煙やその他の不思議な心地よいにおいをそっと運んでくれます。春や秋の晴れた午後には、わたしは友だち数人と、大半の時間をこの草地で過ごしていました。

虫取りは、とてもにぎやかです。虫を見つけたひとりが歓声を上げて走り出します。草の中をぴょんぴょん跳ねながら懸命に逃げて行く小さな虫を、こちらも必死の形相で一丸となって追いかけます。わたしもだれかと手をつないで走ります。そして、獲物を手中に収めると、みんなが一様に大喜び。しっかり握りしめてきたビニール袋の中に、その犠牲者を大切に閉じこめて、注意深く空気を入れ、前にも増して力を込めて、その袋の口をぎゅっと握ります。せっかくの獲物を逃がしてはたいへん。午後が終わるころには、数匹ずつの大切な獲物が、空気で膨れたみんなの袋の中で、跳んだり跳ねたり、がさがさ動いたり……それを持ち帰って先生や友だちやお母さんに見せびらかすのは、とても気持ちがいいものです。「空気穴を開けてあげなさい」先生はいつもそう言って、わたしたちはお昼の飲み物のキャップを開ける先のとがった小さな道具で、袋をプツプツつつきました。「穴が大きくなりすぎたら虫が逃げちゃう……」わたしはいつもどきどきしながら、注意深く袋に空気穴を開けていました。

全盲のわたしには、自分で虫を見つけたり追いかけてたりすることはできません。それでも草地に出かける時には、わたしはいつもビニール袋を握りしめていました。みんなが少しずつ分けてくれる虫たちを、まるで自分が捕まえた獲物みたいに、わたしはとても自慢に思っていました。ちょっぴり気の強いわたしは、ふだん、友だちと小さな言い合いをすることも多かったのに、わたしの虫自慢の気持ちを一度でも悪く言う友だちは、不思議なことに、だれひとりいませんでした。「れいちゃん、虫取りに行こうよおー！」いろいろな友だちが、手をつながなければ一緒に走ることできないわたしを、なんのこだわりもなく、いつも誘ってくれました。

虫を探しているみんなの隣で、わたしはよく、草の中にクローバーの花を探しました。長い茎の上で開いた、細かくて柔らかな丸い花の甘酸っぱい香りを胸いっぱいを感じながら、わたしはたくさんのお花を積みました。それを家へ持ち帰った時、母が、花の茎をまとめてくるくる巻いて、「はなたば」を作るやり方を教えてくれました。茎の途中を注意深くつめて裂いて、そこに別の花を通し、花同士をつなげて簡単な「くびかざり」にすることも……。わたしは「はなたば」や「くびかざり」を作って、虫をくれる友だちにあげました。やっぱり虫のほうがいいなあ——実は自分でもちょっぴりだけそう思っていたのだけれど、お花だって悪くないよね、とも思っていました……。

「れいちゃんも、虫、捕まえてみたいんじゃない？」——ある午後、なかよしのくみちゃんが、いきなりそんなことを言いました。

「うん」

「じゃあ、見つけたら教えてあげるよ」……虫は、すぐに見つかりました。

「そこだ！ もっと前！ きゃあっ、にげる！ あとちょっと、もっと前！！」

わたしは、友だちと片手をつなぎ、右手を草の中にせいっぱい延ばして、身体中にみんなの声援を受け、中腰で跳ねながら全力疾走です。たしかな記憶ではないのですが、虫の行く手をふさぐように、わたしの前に回ってくれた友だちもいたような気がする……。そして、右手の中に、こそとくすぐったい感覚……。虫の小さな足が、たしかにむずむず動いています。「それだ！！」……。ああ、でも、今一歩！ 虫は、わたしの手をすりと抜けて、命辛々逃げて行ってしまいました。

「もうちょっとだったのにねえ！！」……。みんなから分けてもらった虫たちを、わたしはその日も持って帰って、得意満面でした。

幼稚園を卒園し、盲学校へ通うことになったわたしを氣遣って、両親は、千葉県郊外の静かな新興住宅街から東京への引っ越しを決めました。わたしたちが移り住んだのは、車がひっきりなしに行き交う大通りに面した高層マンション。そこに「本物のエレベーター」があることと、「本物の電車」に乗って毎日学校へ通うことを、わたしはとても自慢に思いました。でも、家に帰ってきてしまうと、以前のように一緒に遊べる友だちは、だれもいません。草を揺らしながら行き過ぎる風の音も、すずめたちが屋根の上でちょこちょこ遊ぶ音も、ガラガラと道路を行き交う元気な補助輪付き自転車の音も、屋根に雨がぱらぱら優しく落ちる音も、高層マンションでは、もう聞くことができせん。そして、なによりも悲しかったのは、秋になっても虫たちの声がほとんど聞こえないということでした。家では鈴虫を飼っていたのですが、自然の虫たちのにぎやかで色とりどりの合奏にはとても適いません。

わたしたちの新しいマンションのすぐ近くに、年上のいとこの三人兄弟が住んでいました。そこは庭のある昔ながらの家で、秋にはたくさんの虫たちが、とてもにぎやかに鳴いていました。ある夜、わたしはいとこの家で、おじさんと庭に出ていました。虫たちの声があまりにも美しかったので、そっとしゃがみ込んでなんとなく手を出すと、いきなりその中に小さな虫が一ぴき飛び込んできたのです。わたしは、あわててもう片手を添えて、今度はしっかりとその虫を捕まえました。

「この虫、鳴くかなあ……」

いとこのひとりが図鑑で調べてくれたところによると、それは「オカメコオロギの雄」。

「きっと鳴くよ」

わたしは、わくわくしながら、そのオカメコオロギの雄を連れて、家に帰りました。そして、鈴虫用に砂を敷き詰めて余っていた小さなガラスの箱にコオロギを移し、じっと息をつめて待ちました。もうあきらめかけたころ、遠慮がちに小さな羽音が聞こえてきました。

「キ、キ、キキ、キキキ……」

なつかしいコオロギの声です。たった一ぴきだけだけれど、ちょっぴり寂しかったわたしの部屋で、なつかしい自然のコオロギが、一生懸命鳴いていました……。

わたしがほんとうの意味で東京での生活に慣れるまでには、少しだけ長い時間がかかりました。でも、学校はおもしろかったし、住んでいたマンションには自由に泳ぐことのできる屋外プールもあって、夏にはよくいとこや友だちを呼んでとても楽しく過ごしました。新しい生活がちょっぴりつらかったのは、わたしの幼稚園時代があまりにもすてきだったからなのでしょう。そんな思い出もずっと大切にしていけたらいいなと思っています。



## 令和7年度 幼稚部への入学を希望されている方へ

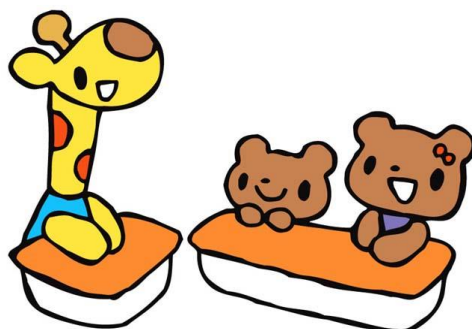
9月2日(月)より、令和7年度入学者募集要項及び願書が配布されます。幼稚部では、事前に入学調査に伴う教育相談を受けていただいた方へのみ願書を配布します。出願をご予定の方、出願を検討されている方は、幼稚部まで電話又はメールにて事前にご連絡の上、教育相談をお受けください。(連絡先は下欄をご覧ください。)

なお、出願書類の準備には時間を要することが予想されます。できるだけ早めに教育相談をお受けいただくことをお勧めします。

対 象：令和7年4月1日現在、3歳児 もしくは 5歳児

願書配布：令和6年9月2日(月)～(本校事務室にて)

※ なお、出願期間、入学調査日等詳細については募集要項にてご確認ください。



教育相談に関するお問い合わせ・申し込みはこちら

筑波大学附属視覚特別支援学校 幼稚部 (担当：早期教育支援部 高橋里子)

〒112-0015 東京都文京区目白台3-27-6

TEL 03-3943-5422 (幼小直通) Mail [ikujigakkyuu@nsfb.tsukuba.ac.jp](mailto:ikujigakkyuu@nsfb.tsukuba.ac.jp)

- ・ 教育相談は無料です。
- ・ メールの場合は必ずお名前・ふりがな(ご本人及び保護者)、生年月日(ご本人)、ご住所、ご連絡先を明記の上、お問合せ・お申し込みください。
- ・ 個別のご相談は随時お受けしております。ご希望の方はご連絡ください。
- ・ 相談者の居住地は問いません。オンラインでもご相談に応じます。お気軽にお問い合わせください。